



平成 19 年 3 月 28 日

各 位

会 社 名 森 下 仁 丹 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 駒 村 純 一
(コード番号 4524 東証・大証各2部)
問 合 先 取 締 役 経 営 企 画 室 長 武 貞 文 隆
電 話 番 号 06-6761-1131(代表)

平成 19 年度事業計画の概要について

当社グループは、このたび平成 19 年度事業計画を策定いたしましたので、下記の通り概要をお知らせいたします。

記

I. 策定の背景

当社グループ(以下当社という)は、3月13日に平成18年度業績予想の修正を公表いたしました。その中で、本社工場・研究所跡地の売却による特別利益計上により、当期損益が3,180百万円の黒字となる見込みで、一株当たり2.5円の配当を行う旨をお知らせしました。

一方、通常の営業活動から生じる経常利益に関しましては、上期の大幅な赤字をカバーしきれず、通期でも赤字となる見込みですが、下半期単独では宣伝・販促の効率化やコスト削減などの施策が奏効し、上期比848百万円が改善され約59百万円の黒字を計上できる見込みであり、収益体質改善施策の効果が現れてきました。この収益体質の更なる改善と安定化の道筋が見えてきたこともあり、平成19年度の実業計画(方針および戦略)を策定し、お知らせすることといたしました。

なお、向こう2年間の中期経営計画に関しても現在策定中であり、確定次第お知らせいたします。

II. 事業方針

1. 安定した収益体質の構築に向け、経常利益黒字転換を目指します。
2. 経常利益連結250百万円、単独200百万円を最低目標とし、さらなる上方修正を指向します。当然ながら安定配当を維持継続する方針です。
3. 本社工場・研究所の売却による資金を活用し、将来を見据えた事業拡大への戦略的投資を実施します。

数値目標

連結

(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
18 年度業績予想 (A)	8,100	△730	3,180
19 年度業績目標 (B)	8,500	250	130
増 減 額 (B—A)	400	980	△3,050
増 減 率 (%)	4.9%	—	—

単独

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
18年度業績予想 (A)	7,700	△780	3,120
19年度業績目標 (B)	8,100	200	100
増減額 (B-A)	400	980	△3,020
増減率 (%)	5.2%	—	—

※上記予想は、本資料提出日現在で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想と異なる場合があります。

III.重点施策

1. 経営戦略

- 固定資産の売却益により財務体質が強化されたことから、当社の技術のルーツである生薬、カプセルを中心とした事業領域の拡大に向けて積極的な戦略投資を実施します。
- メタボリックシンドロームのリスク低減に対し、商品開発は当然のこと、それに関連する健康診断・カウンセリングといった事業展開についても着手します。さらに、長野県の自社農園（約1万5千坪）での甘茶(仁丹の主原料の一つ)栽培規模を拡大し、品質および需要量の確保に努めるとともに、この農園の一部を活用し、農作業体験などを中心に周辺施設とも連携したアグリツーリズムの拠点として位置づけるなど、LOHAS(ロハス)支援事業にも進出してまいります。※「甘茶」については下記の開発戦略にて補足いたします。

2. 事業戦略

- 当社にとって「仁丹」ブランドの復権は小売店販売事業のみならず他事業にとっても市場競争力の根幹となるものです。そのために「仁丹」の医薬部外品としての商品価値を再活性するべく販促活動を強化し、また現代人の嗜好に合わせるべく食味・香味を一新した「新・仁丹」の発売を予定します。
- 通信販売においては、マス媒体を活用した従来の宣伝手法に加え、お客様と直接触れ合えるセミナーやイベントの開催を専門部隊を配置して実施し、新規ユーザーの獲得に努めます。また、既存のお客様を中心に「仁丹クラブ(仮称)」を組織し、口コミでの拡販を推進するとともに、上記新事業の各種サービスをご提供することで「仁丹」ブランドの信頼性向上に努めます。
- なお小売店販売においては、ロート製薬株式会社との共同販売会社である株式会社メディケアシステムズは順調に稼動しており、当社としても新製品導入および既存商品のリニューアルを積極的に進めてまいります。
- カプセル受託においては、ビフィズス菌や乳酸菌などの米国プロバイオティクス市場をターゲットとし、大手PBメーカーとのコラボレーションを強力に推進し更なる市場シェアアップを目指します。さらに新規素材として「ラクトフェリン」を米国大手メーカーに紹介し好感触を得ており、早期市場形成に注力します。※「ラクトフェリン」については次の開発戦略にて補足いたします。

3. 開発戦略

1) カプセル受託事業

- ・ 先般発表いたしました神戸大学と共同出願した特許に基づく経口腸チフスワクチンの商品化を始め、医療用および一般用医薬品開発を継続して推進してまいります。当社カプセルによる腸溶性や速溶性あるいは微小製剤や二重カプセル製剤などのメリットを生かした開発が順調に進展しており、来年度には1品が上市される予定です。
- ・ カプセルの皮膜開発にも重点を置いて推進してまいります。従来の食品・薬品向けの植物性皮膜素材に加え、新たに工業用途向けの特殊高分子皮膜のカプセル化に成功しており、第1四半期中に関連特許の申請を完了し、排水処理やアミノ酸発酵、バイオエタノール醗酵などの工業用途の開発を本格化させます。また安定性と機能性の向上を目的とした既存製法と異なる新規技術開発にも着手しており、シーズニング等の一般食品やフレグランス等の非食品分野への拡大展開も図ってまいります。

2) ヘルスケア事業

- ・ メタボリックシンドロームの対応の一環として、コレステロール低下作用を持つ「コレステロールファイバー」に続く「特定保健用食品（トクホ）」の導入を積極的に行なってまいります。
- ・ 次の素材については重点的課題として、早急に商品化或いは改良に取り組んでまいります。

① ラクトフェリン

当社独自の腸溶性カプセルにより有用性を発揮できる素材であることは予備試験で確認済。次ステップとしてヒト臨床試験を計画しています。またトクホの取得へ向けての開発にも着手いたしました。

② ビフィズス菌産生多糖

当社が独自に見出したビフィズス菌株が産生する多糖類は、その高い保湿性能から既に化粧品として商品化されていますが、さらに研究で食品としての有用性も発見され、機能性食品の開発を加速します。

③ 甘茶

自社栽培素材として「仁丹」の再活性化と時を同じくして本格的に研究開発に取り組みます。特許成分の甘茶ポリフェノールに有用性が認められた他、天然甘味料としてショ糖の400倍の甘味を持つことから、糖尿病患者や肥満予防のダイエット甘味料として製品化し、本年度中に発売する予定です。

④ アスタキサンチン

昨年より注目を集めている機能性素材ですが、当社カプセルの利用により有用性がより発揮できることから、既存のCOQ10やα-リポ酸との配合製品に加え、新しい製剤の商品化が近々実現する見通しです。

⑤ カンカ

カンカ（正式名：カンカニクジュヨウ）とは中国新疆ウイグル地区にあるホータンに隣接するタクラマカン砂漠だけに見られる砂漠ニンジンのことです。ホータンは世界4大長寿地区として有名で、それを支えるカンカは、当社の企業理念に合った素材として国内で最初に商品化、現在も研究に取り組んでいます。本年3月には国際カンカシンポジウムが開催され、今年度の注目素材のひとつです。またカンカ栽培を通じて当社はタクラマカン砂漠の緑地化事業にも関与しており、社会貢献も担っています。

以上